



## Sustainability Report 2024

# Sustainability Report 2024



<https://www.kobelcosys.co.jp/>

本 社: 〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル  
東京本社: 〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9番12号 北品川IONビル

発 行: コベルコシステム株式会社 CSR推進委員会  
(事務局 TEL. 078-261-7531 FAX. 078-261-7520)

本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています

印刷に関する配慮



この印刷製品は、環境に配慮した資材と  
工場で製造されています。

用紙に関する配慮



この冊子はFSC®認証紙を使用して  
います。

インクに関する配慮



環境負荷の少ない植物油  
インクを使用しています。

## Top Message

国内経済はコロナ禍以前の状態に回復しつつあり、企業は物価高・人材確保のために持続的な賃上げに取り組むことで好循環を生み出そうとしています。一方、日本のGDPはドイツに抜かれて世界4位になり、時間あたりの労働生産性は低迷を続けています。ITを活用した生産性向上・新たな価値創出は急務であり、当社が果たすべき役割は大きくなっていると認識しています。

そのような中、わたくしどもは、2024年から始まる新中期経営計画『for the Next Stage(2024～2026)』を策定しました。社内外において持続的な「成長」と「貢献」を目指すことを念頭に進むべき方向性を定めました。以下の3つの方針に取り組んでいきます。

### 「ビジネス」を変える(経済価値の創出)

2030年を見据えたビジネス変革を実現する

1. 従来ビジネス領域での徹底した生産性向上により一定の成長を目指す

- AIなど新技術を積極的に活用するとともにアセット化を進め、脱工数<sup>(※1)</sup>ビジネスを加速させる

2. 今後の成長に向けた投資を積極的に実施し、次なる事業を立ち上げる

- お客様(特に神戸製鋼所)との共創案件を推進することで、「製造業に強いコベルコシステム」に磨きをかける
- 事業基盤への投資、株主、ビジネスパートナー様、社員への還元を行いながら、テクノロジーを中心とした新事業にチャレンジしていく

### 「社会」を変える(社会価値の創出)

ビジネスを通じて社会課題に取り組みながら、社会の一員としての責任を果たす

- 日々の業務や企業活動を通じて社会価値を創出する  
(「環境への配慮」「経済成長」「労働力不足」「公平性・多様性の確保」など)

### 「自分」を変える(人材価値の向上)

多様な価値観を持つ社員一人ひとりが能力を伸ばすことができる環境を提供する

- 自律的キャリア形成やさまざまなチャレンジを通じ、社員の市場価値向上と自己実現を支援する
- 社員が誇りを持てる企業ブランドをつくりあげていく
- これらを通じて社員とのエンゲージメントを高める

今、世の中はすべての産業においてサステナビリティに取り組む方向であり、当社においてもサステナビリティ経営をベースに次期中期経営計画を策定しました。お客様はもとより、社員やその家族、ビジネスパートナー様、地域社会との持続的な共存共栄につながる経営についていく所存です。当レポートにおいても、今回から「サステナビリティレポート」に改称し、当社の考え方・取り組みを広くお伝えしていく、今後レベルアップを図っていきたいと考えています。

また、事業を推進するうえで土台となるのが、社員一人ひとりのコンプライアンスの高い意識であり、コーポレートガバナンスの仕組みを継続することだと考え、引き続きしっかりと取り組んでいき、正しい判断のもと行動していきます。

当レポートをご覧になった皆様が、当社の活動を通じた社会貢献にご理解いただけることを切に願っています。

※1 脱工数：工数ビジネスからの脱却。工数ビジネスとは、作業量に応じて費用を支払うもので、要員単価×所要月数で見積るビジネス。

## Sustainability Report 2024



### Contents

#### 特集

コベルコシステムのサステナビリティ経営への取り組み — 03

#### サステナビリティ経営を支える経営基盤

サステナビリティ経営を支える経営基盤 — 09

#### お客様とともに

お客様から信頼されるパートナーになるために — 11

セキュリティなくしてビジネスなし — 13

品質向上活動に終わりはない — 14

先進技術への取り組み強化 — 15

外部からの評価 — 16

お客様事例紹介 — 17

#### ビジネスパートナー様とともに

公正なパートナーシップの維持 — 19

#### 社員とともに

人材育成の仕組み — 21

社員と組織の絆を深めるために — 24

#### 地域社会とともに

環境保護・地域貢献活動 — 25

会社プロフィール / 沿革 / 編集後記 — 26

#### [報告対象期間]

2023年1月1日から12月31日の1年間の活動を中心に記載しています。  
一部につきましては、対象期間以前からの経緯やサステナビリティレポート発行時直近(2024年)の事項についても記載しています。



# コベルコシステムのサステナビリティ経営への取り組み

## サステナビリティ経営への取り組み状況

コベルコシステムは、経営理念・長期経営ビジョンに基づき、すべてのステークホルダーにとってかけがえのない存在となるよう、事業活動を推進しています。また、ESGに配慮した経営のもと、社会の重要課題に取り組み、事業活動（デジタル化、ガバナンス

強化など）を通じてSDGs達成に貢献していくことが、持続的な企業価値向上につながると考え、「サステナビリティ経営」の推進について議論を進め、「サステナビリティ経営」への取り組みを新中期経営計画（2024～2026年）に盛り込み、2024年からスタートしました。



## 経営理念と長期経営ビジョン+サステナビリティ経営

新中期経営計画（2024～2026年）の開始に際し、従来から存在している経営理念と長期経営ビジョンに、サステナビリティ経営への取り組みを織り込みました。

### 経営理念

私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。



### 長期経営 ビジョン

## Be a Trusted Partner

Trusted Partner

Trusted Supplier

Supplier

### お客様に信頼されるパートナーとして

- お客様にとってなくては困る会社
- お客様とともに成長する会社
- 社員が誇りを持てる会社

New

**+ サステナビリティ経営への取り組み**  
(社内外において持続的成長に貢献する企業となる)

## サステナビリティ経営検討に向けての若手座談会開催

「サステナビリティ経営」への取り組みを検討するにあたり、「当社の社会への貢献/存在意義」の確認を行いました。若手の意見を取り入れるために、30人のSDGsネイティブ<sup>(※2)</sup>といわれる若手社員と社長、副社長を交えた座談会を実施しました。具体的には、現在の経営理念、長期経営ビジョン、中期経営計画についての理解を

※2 主にミレニアル世代（1981年～97年生まれ）とZ世代（1998年～2010年生まれ）の若い頃から日常生活や学校教育などでSDGsに関する言葉や知識に触れ、環境問題や社会課題に高い関心を持つ人。

深めたうえで、「お客様、社員を含めたすべてのステークホルダー（お客様、社員、株主、ビジネスパートナー様など）に対し、どのような貢献をしていくのか。何のために存在しているのか。」について議論してもらいました。（下表「若手社員の想い」参照）

### ■若手社員の想い

ステークホルダーとの共存共栄、ステークホルダーの持続的な成長に貢献する会社でありたい。

#### 社会に対して

社会に貢献することで、自社・自身の存在意義・誇りを見出したい。

##### ●世の中のサステナビリティへの貢献

- ▶ ITビジネスを通じて（お客様を通じて）社会課題の解決に貢献（ITはサステナビリティを支えるツール）
- ▶ 自社でできるCO<sub>2</sub>削減につなげる活動（オフィス環境の効率化・縮小など）

##### ●地域社会への貢献

- ▶ 雇用創出（入社したいと思える魅力的な企業であること、多様な雇用体系）
- ▶ ボランティア活動（「森の世話人」活動の継続、IT企業の特色を活かした活動）

##### ●世の中への情報発信

- ▶ コベルコシステムのブランド力向上
- ▶ サステナビリティ経営への取り組み発信

#### お客様に対して

ITビジネスを通じて、  
お客様のサステナビリティに貢献したい。  
お客様を通じて社会に貢献したい。

##### ●お客様に寄り添い、お客様の価値観と当社の想いを 共有し、ベースとなる信頼関係をお客様と構築する。

##### ●サステナビリティに貢献するIT投資を共創する。お客様 を通じて社会課題解決につなげることでお客様や社会に 貢献する。

#### 社員に対して

社員のスキルアップ機会を創出し、  
当社で働き続けたい環境を提供することで、  
社員の持続的な成長に貢献したい。

##### ●充実したスキルアップ機会の提供

- ▶ スキル継承のための仕組み
- ▶ 成長のためのローテーション
- 働く環境づくり
- ▶ 多様性の尊重、自由な働き方の選択
- ▶ 収入アップ

### ■座談会の様子



社長から会社の歴史などについて説明



チームに分かれて議論



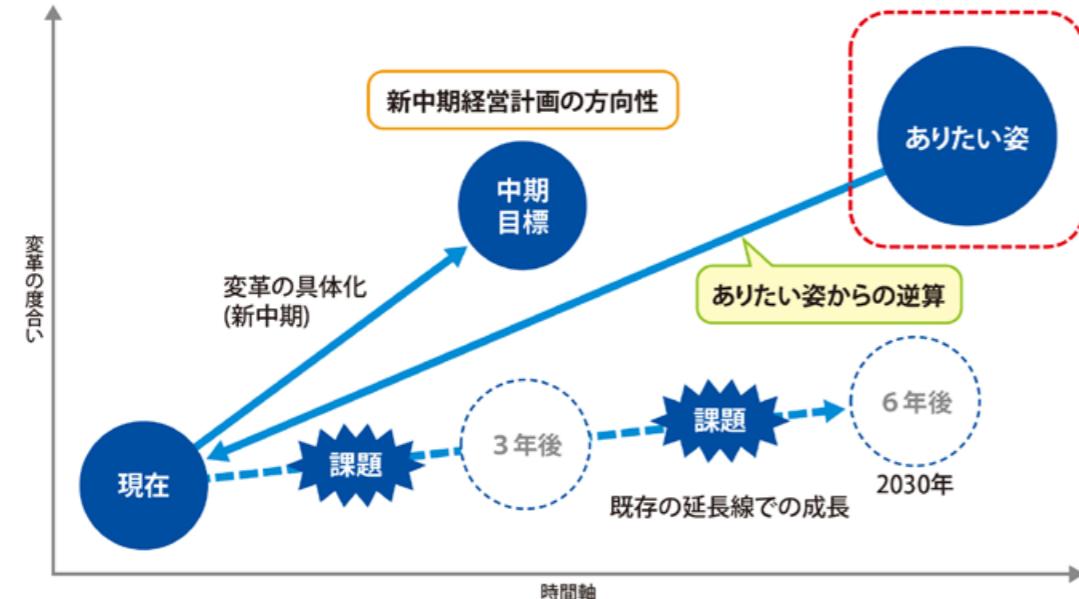
各チームから発表



# コベルコシステムのサステナビリティ経営への取り組み

## 未来の「ありたい姿」からのバックキャスト

新中期経営計画では、既存の延長線上ではなく、未来の「ありたい姿」からのバックキャスト(未来から現在への逆算)で今後3年間に取り組むべきアクションを検討しました。



未来の「ありたい姿」を描くために、2030年の社会やITを取り巻く環境について、情報収集や有識者からのヒアリングを行いました。私たちSler<sup>(※3)</sup>の未来は、SaaS製品が主流となることで基幹系システムのシステム構築が減少し、生成系AIやローコード・ノーコードの活用により開発規模は縮小、さらに事業会社のIT内製化が進んでいくことでSlerの市場規模自体が縮小していくと予測されています。このままの延長線上では、当社のシステム開発・保守を中心としたビジネスは縮小することが見込まれるため、新中期経営計画では、お客様が考えている社会課題解決(持続可能な社会)の取り組みを理解し、その実現のために、従来の領域だけでなく新たな領域にチャレンジするSlerへの変革を目指します。

※3 System Integrator: お客様の要望に応じて、システム開発や運用などを請け負う企業

ありたい姿

共通価値を創造する会社 + 社員が幸福を感じる会社

## 新中期経営計画の方向性

- より自らが発信、提案していく** お客様からの要望を受動的に対応するのではなく、お客様の想いを深く理解とともに新しい価値を創造するために能動的に働きかけ、存在感を高めていく
- より新しいことにチャレンジする** 既存事業の成長に加え、新市場の開拓や新しいソリューションの創出に取り組み、持続的に価値を提供する
- より社員の市場価値を高める** 社員一人ひとりの市場価値を高めていくことに加え、付加価値の高いサービスを提供することで脱工数を進める
- より経済的価値と社会的価値を両立する** 企業活動を通じて、お客様をはじめすべてのステークホルダーが抱える社会課題を解決し、持続的成長に貢献するとともに、経済的利益を両立させる  
(経済価値(自社の利益獲得) + 社会価値(社会課題の解決) = 共通価値)
- より社員と共感し合う** 社員一人ひとりが能力を最大限に發揮し、価値を生み出し提供していくために、社員と会社が目指す方向性について共感し合い、仕事を通じて社員の幸福感を高めていく

## 「ありたい姿」実現のために

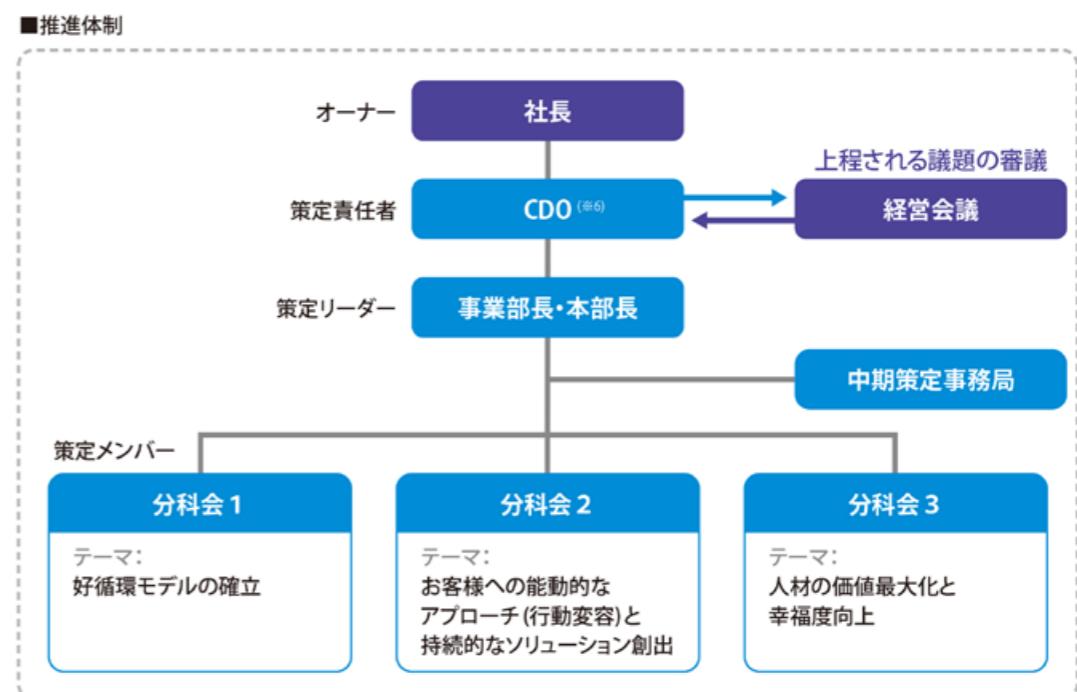
まずは、策定リーダー<sup>(※4)</sup>が中心となって、「ありたい姿」や目指すべき方向性を定め、実現に向けての検討テーマの洗い出しを行いました。その後、策定メンバー<sup>(※5)</sup>が加わり、3つの分科会に分かれ、ITビジネスを通じて社会課題を解決すること(経済価値と社会価値の両立)を盛り込むことを前提として、「ありたい姿」の実現に

※4 策定リーダー: 事業部長、本部長から選出された3人

※5 策定メンバー: 各本部、本社部門から選出された12人の副本部長、部長

向けて、新中期経営計画で何をどこまで行うのか、実現に向けてボトルネックとなりそうな課題について掘り下げ、その解決策案を検討しました。

推進体制、各分科会の活動内容については、下図をご参照ください。



※6 CDO(Chief Delivery Officer): 全社デリバリー統括責任者。  
デリバリー部門の売上・利益目標の達成、デリバリー要員の最適配置、QCD強化を担当。

## ■分科会概要

分科会	分科会概要
1.好循環モデルの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質・生産性・利益向上を目指して、社内外の人材・技術・情報の好循環を確立するための方策を検討。 (主に、神戸製鋼所・KOBELCOグループ ⇄ 外販のお客様)</li> </ul>
2.お客様への能動的なアプローチ(行動変容)と持続的なソリューション創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>両親会社を含めたお客様や社会に対し、能動的な働きかけを行うような行動変容を実現する方策を検討。</li> <li>今の延長線上ではない新市場や新規ソリューションを持続的に創出するための方策を検討。</li> <li>人月単価ではない価値の高いサービスを創出するための方策を検討。</li> </ul>
3.人材の価値最大化と幸福度向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>社員の価値が最大化された状態(目指す人材像)を定義し、その実現に向けた方策を検討。</li> <li>社員のハッピーにつながる働きやすい環境づくり(健康、生産性向上・効率化、多様性尊重など)を検討。</li> </ul>



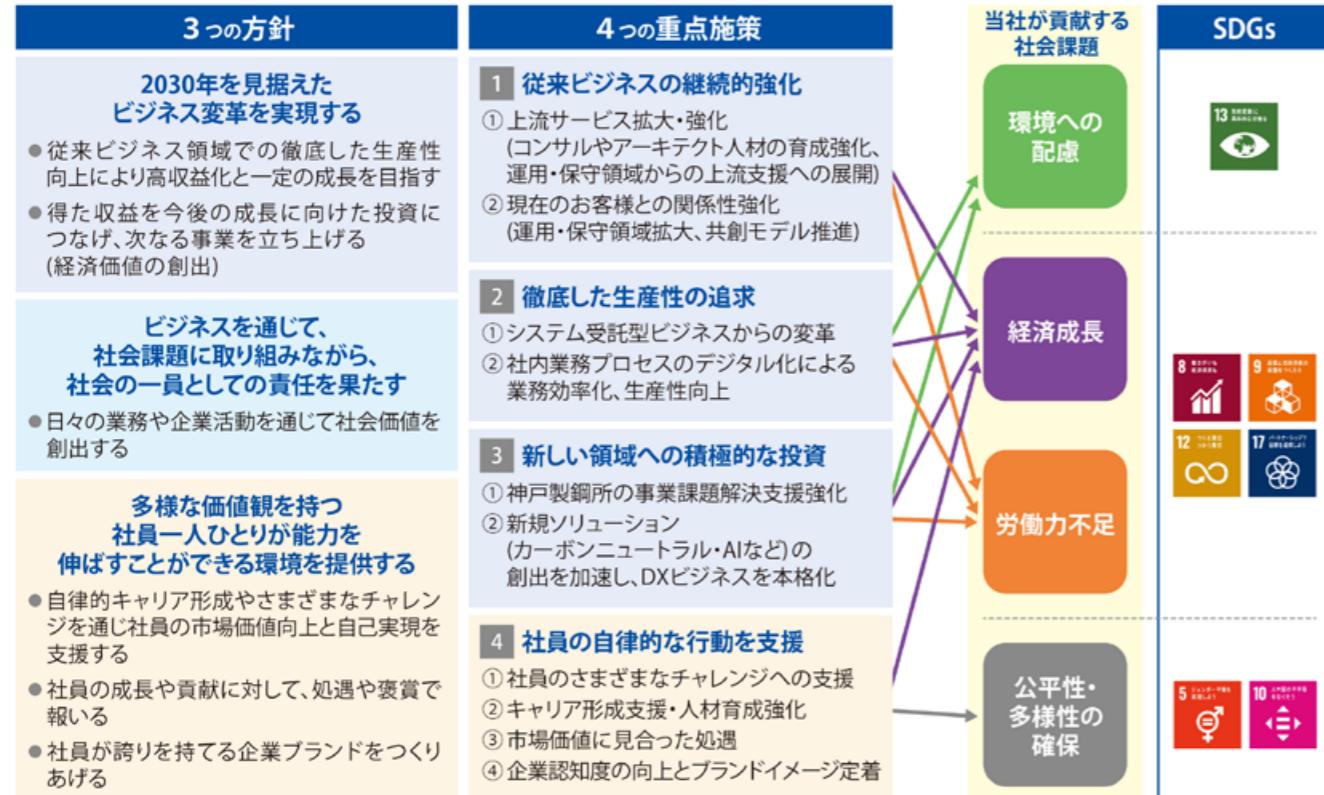
# コベルコシステムのサステナビリティ経営への取り組み

## 新中期経営計画における取り組みとSDGs

「ありたい姿」を実現するための取り組みを、以下の「3つの方針」、「4つの重点施策」にまとめました。

この方針、施策が新中期経営計画の骨子であり、中期経営計画を

### ■サステナビリティ経営への取り組み



新中期経営計画の名称を「for the Next Stage」と定めました。持続的な「成長」と「貢献」を目指して、ビジネス・社会・自分を変えていきます。

### ■新中期経営計画(2024~2026)

## for the Next Stage 持続的な「成長」と「貢献」を目指して



サステナビリティ経営への取り組みを周知・浸透させていくため、ファーストラインを対象としたキャラバン活動や社員を対象とした経営陣によるタウンホールミーティングを実施する予定です。当社の

サステナビリティ経営の活動を社外へ発信し、策定した取り組みを全社員が着実に遂行することで、企業・社員の価値向上と持続的な成長を目指します。

## マネジメント・経営品質

コベルコシステムのマネジメントは、「常にお客様満足の追求を経営の中心に置き、組織・プロセスを変革する」という考え方を基本としています。

当社では、経営品質向上プログラム<sup>(※7)</sup>の「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念を軸に組織・プロセスの変革に取り組んでいます。

<sup>(※7)</sup> 経営品質向上プログラム:  
日本経営品質協議会のプログラムで、顧客、競争(独立性)、社員、社会のすべてにおいて高い価値を作り出すために革新し続ける経営づくりを支援するプログラムです。「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念から構成されており、これらをすべて満たすことが卓越した経営に共通した条件とされています。

### 顧客本位

**お客様に信頼される真のパートナー**  
私たちは、お客様ごとのニーズに応じて情報システムを構築・提供するサービス業であり、常にお客様の価値を創造していくことが使命である。

### 独自能力

**他社との違い**  
現場の経験で培ってきた優れた品質・高度な技術、それを支える確かな業務知識やIT専門知識、そしてお客様の夢を実現するための独創的な「知恵」が私たちの財産である。

### 社員重視

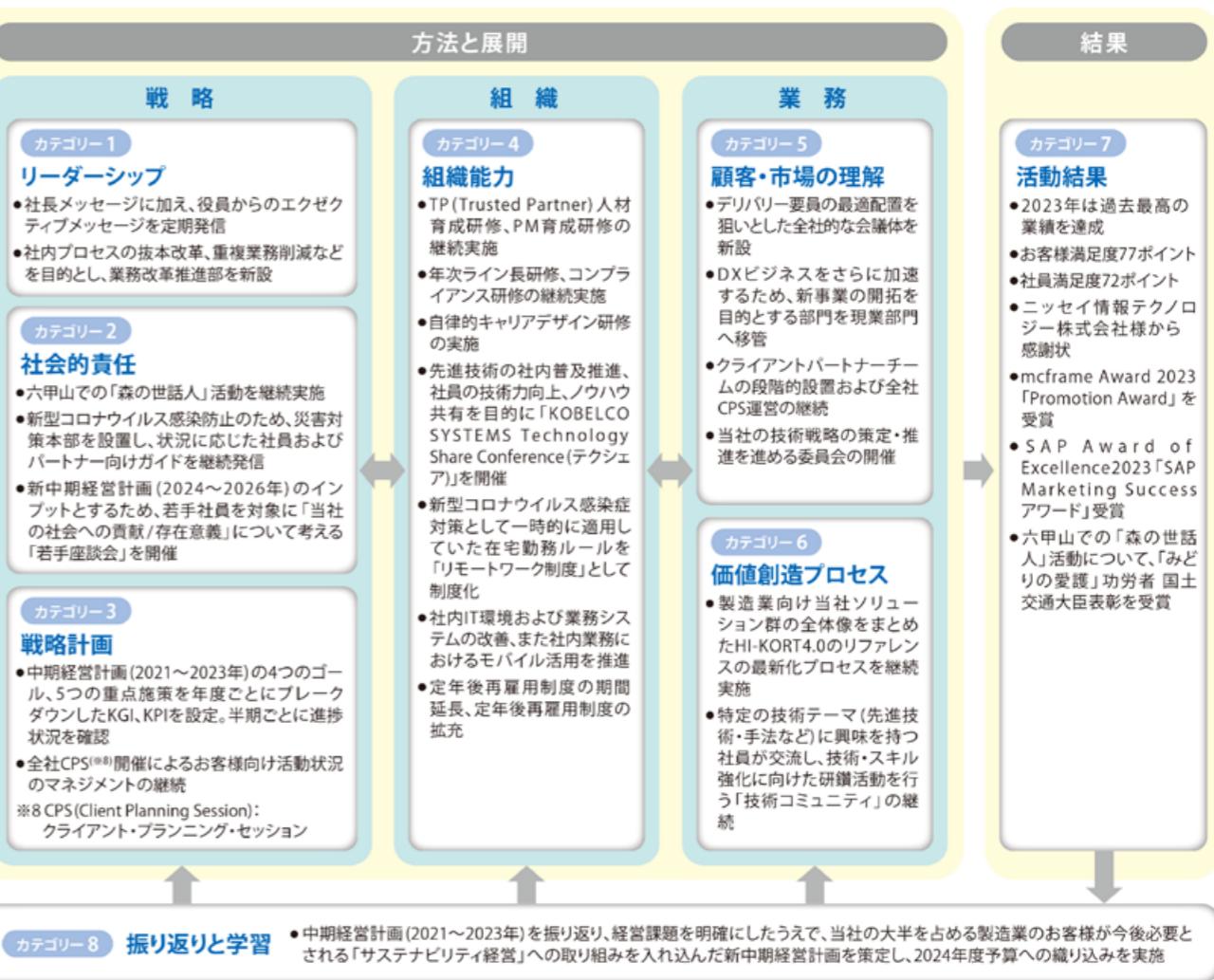
**プロフェッショナル人材**  
挑戦し、学び続ける自律した人材と、お互いを尊重する自由闊達な組織風土が、事業を営んでいくための重要な資産である。

### 社会との調和

**企業倫理の遵守と健全な成長**  
コンプライアンスを推進し、適切なガバナンスを自律的に作り上げ、社会的な価値観で考え方行動し、地域貢献活動にも積極的に参画する企業文化である。

## 経営品質向上プログラムのフレームワークと2023年の活動結果

コベルコシステムでは、経営品質向上プログラムの「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念を軸に組織・プロセスの変革に取り組んでいます。各カテゴリーでの2023年の活動結果を下記フレームワークに示します。



# サステナビリティ経営を支える経営基盤

## ガバナンス推進体制

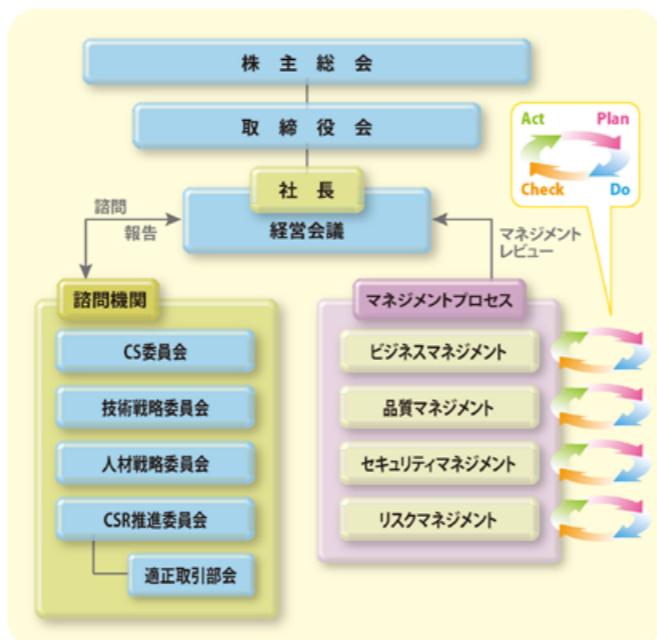
コベルコシステムは、株主総会を起点とし、取締役会、および経営会議を基盤とする経営管理体制によって運営されています。取締役および執行役員の任期は1年として各年度の経営責任を明確にし、経営環境の変化にも迅速に対応できる体制としています。

取締役会は、3ヶ月に1回の定期開催、および必要に応じて随時開催し、業務執行の基本となる意思決定や監督を行っています。経営会議は、経営戦略や重要施策の策定など、経営上の重要な事項を審議・決定します。

当社は、米国に本社を置くIBMグループの一員であり、SEC(米国証券取引委員会)の会計基準および米国SOX法に準拠したIBMの内部統制の配下にある会社です。

最高経営責任者(社長)および最高財務責任者(管理部長)は、四半期単位で財務諸表が正確であること、内部統制が健全に機能していることをステークホルダーに宣誓しています。

業務の有効性や効率性、財務諸表の健全性や信頼性、法令遵守などコベルコシステムの内部統制環境が機能していることを保証するためにSOXテストやモニタリングを実施しています。



## コンプライアンス推進体制

お客様に信頼される真のパートナーになるために、法令などを遵守するのはもちろん、企業倫理に則した行動を取ることが必須です。コベルコシステムでは、「IBMビジネス・コンダクト・ガイドライン」(BCG)を適用した「コベルコシステム企業倫理規程」を制定し、社員一人ひとりが行動する際のガイドとしています。

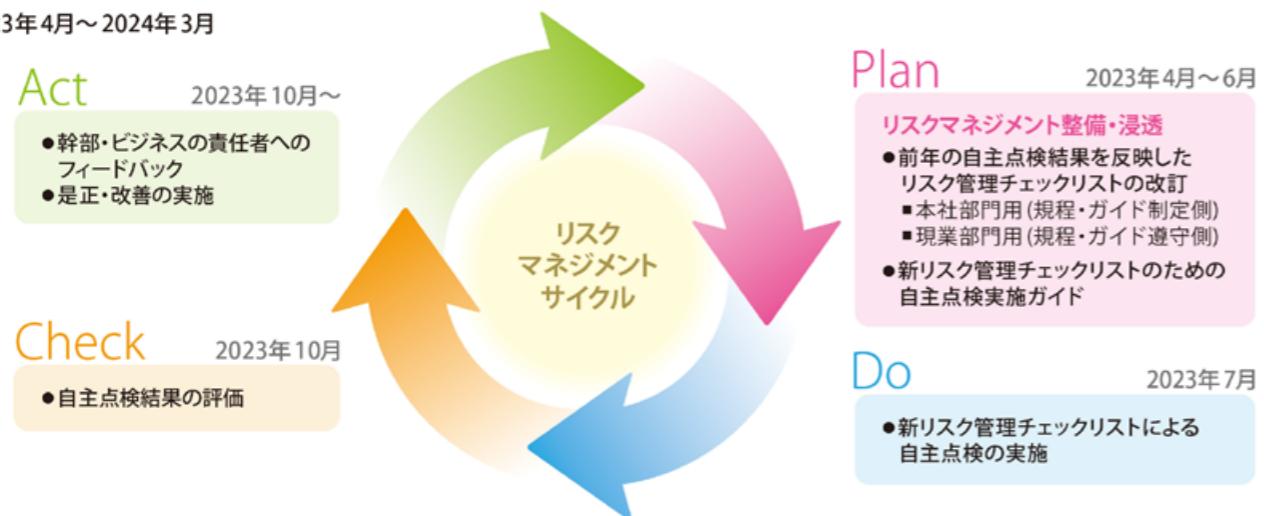
また、企業活動を取り巻く、多様化、複雑化、かつ高度化するリスクに対して適切に対応することも求められるため、コンプライアンス推進活動の一環としてリスクマネジメント活動を継続しています。これは、リスク管理チェックリストを使用した自主点検を行っています。

中心とする取り組みで、その結果に基づき、残りリスクへの改善策を策定し実施するPDCAサイクルを回しています。

当社はビジネスパートナーとともにプロジェクトを遂行するため、ビジネスパートナーとの取引が適正に行われているかどうかの確認も重要です。このため、「発注者の請負の適正化のための自主点検」チェックリストを使用した自主点検を実施し、その結果に基づき、懸念のある項目に対しては適正取引部会が責任者へのヒアリングを実施して具体的な懸念の内容を確認し、改善に向けたアドバイスや対応策の指示などを行っています。

### ■ 2023年度リスクマネジメント推進活動

2023年4月～2024年3月



## コベルコシステムのステークホルダー

### お客様

ITソリューション/サービスを通じて  
お客様の発展とチャレンジに貢献し続ける



### 社員

企業発展の原動力である社員一人ひとりが  
活力を高め、最大限のパフォーマンスを  
発揮できる職場を実現する

### 株主

日本IBM、神戸製鋼所のグループの一員として  
企業活動を推進する

### ビジネスパートナー様

ビジネスパートナー様と  
健全でWin-Winの関係を築く

### 行政

法令などを正しく理解・遵守し、  
行政との良好な関係を保つ

### 地域社会

当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して、  
企業市民として社会への貢献を確実に実行する

## 社会的責任を果たすために

コベルコシステムでは、設立20周年にあたる2007年、社会的責任を果たすためのさまざまな活動を整理・体系化し、2009年にはCSR推進委員会を設立しました。2012年には、適正取引に関する活動をしていた「適正取引推進委員会」をCSR推進委員会の「適正取引部会」として統合し、コンプライアンスの強化と情報セキュリティの強化、リスクマネジメント、適正取引の推進、社会貢献活動の充実を目指して活動を行っています。

この委員会は、経営会議の諮問機関として、CSR担当役員を委員長とし、各部門から選出された委員で構成されています。「社会との調和」の観点から、経営課題を共有し、全社レベルの課題に対して委員のリーダーシップによる継続的かつ迅速な活動を通じて、すべてのステークホルダーからの信頼向上を図り、社会とともに会社が持続的に発展することを目指しています。

当委員会は、全社のCSRに関する重点活動領域の設定、個別テーマのワーキンググループによる活動、社内外へのCSR情報の開示などのコミュニケーション活動を担い、当社が社会的責任を果たしていくことを支えています。

また、2024年からスタートした中期経営計画で掲げている「サステナビリティ経営」を受けて、社会や当社の持続的な発展に、より重点を置くべく検討を進めています。

これらの活動を幅広くステークホルダーの皆様にご理解いただくために、従来のCSRレポートを今年からサステナビリティレポートに改称して発行しています。

## 取得済の認証・認定・許可



■登録組織：ICT本部  
■登録範囲：ソリューション事業部  
■登録範囲：クラウド事業部 エンタープライズ本部  
■登録範囲：クラウド事業部 アウトソーシング本部 第4サービス部  
■登録範囲：クラウド事業部 アウトソーシング本部 第5サービス部  
■登録範囲：ICT本部 営業本部  
■登録範囲：JIS Q 27001 ISO/IEC 27001 JIS Q 27001  
■規格：JIS Q 27001:2014 (ISO/IEC 27001:2013)  
■登録番号：JSAI003  
■有効期限：2025年10月31日  
■登録認証機関：日本規格協会ソリューションズ株式会社  
審査登録事業部



■認証範囲：情報システムに関するハードウェア製品、及びソフトウェア製品の提供、情報システムに関するビジネスコンサルティング、構築、運用、保守及びその他のサービスの提供  
■上記事業に関連する管理業務  
■規格：ISO/IEC27001:2013, JIS Q 27001:2014  
■認証書番号：4730906-5C  
■この認証書は4730906の一部を構成するものです  
■有効期限：2025年10月31日  
■登録認証機関：ピューローベリタスジャパン株式会社



# お客様から信頼されるパートナーになるために

コペルコシステムでは、「お客様満足度向上活動」を経営の支えとなる大切な取り組みと位置づけ、お客様の声に耳を傾け、お客様のご期待を超える、お客様に必要とされる会社作りに取り組んでいます。長期経営ビジョンに「Be a Trusted Partner」を掲げ、お客様から信頼される真のパートナーとなり、お客様が抱えている社会課題の解決にともに取り組み、持続的成長に貢献する企業を目指しています。

## CS(Customer Satisfaction)調査

お客様がコペルコシステムに求めていることを知り、その思いに真摯に応えることで、お客様の真のパートナーであり続けたいと考えています。そのための方法としてお客様からのご意見やご評価をいただく「CS調査」を行っています。CS調査は、当社の活動全般に関する「お客様満足度調査」、構築・開発プロジェクトに関する「プロジェクト満足度調査」、運用保守サービスに関する「サービス満足度調査」の3種類を適時に行ってています。

## 改善内容のお約束

CS調査でお客様からいただきご意見をもとにお客様の課題とコペルコシステムへの期待を確認し、今後の改善内容についてお約束しています。その内容に基づき改善活動を行っています。

# Be a Trusted Partner

にめたるけ

続れば

継続的な改善活動

毎年、レベルアップ

お客様から選

## 活動結果のご報告

お約束した改善の進捗状況や達成状況をお客様に報告し、ご期待に応えることができたかを評価いただいています。

活動が不十分であったなど、さらなる課題についても確認し、継続して活動ていきます。



## 業務改善活動

以前はCS改善活動という名称で実施していましたが、すべての改善はCS向上につながるという考え方のもと、名称を業務改善活動に変更して全社的に実施しています。

2023年は、129チームが結成され、571人の社員が改善に取り組みました。

改善の成果は、業務改善活動発表会にて共有されます。発表会では、役員による審査の他、社員による投票結果も加味して最優秀賞を選定しています。

また、内容については、発表時の動画をインターネットで公開することにより、発表会に参加できなかった社員にも成果や知見の共有を図っています。

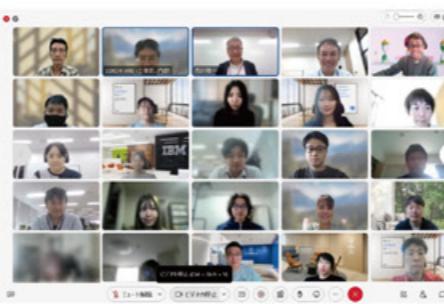


### CS委員会

会社がCSについて検討する場としてCS委員会を設置しています。メンバーはCS担当の役員であるCS委員長と、各部門の代表であるCS委員で構成され、CS向上につなげるために社内プロセスや施策の変革に取り組んでいます。社員のCS意識の向上につなげ、ひいてはお客様から選ばれ続ける会社となるべく、満足度の向上をリードしています。

### CS研修

社員のCS意識のレベルアップを目指して、CSに関するeラーニングを実施しています。2023年版の内容は、お客様視点経営から始まり、CSの観点から見たDXの取り組みや、業務改善活動を行う意義の他、前年のお客様満足度調査の振り返りなどの内容で、全社員、全役員が受講しています。また、社員のCSマインドを向上させる場として、選抜したメンバーによるCS集中討議会を実施しています。CSに関するテーマに沿って意見を交わし、新たな考えに気づくことにより、CSマインドの向上を図っています。



オンラインでのCS集中討議会の様子

### CSスローガン

社員からの公募によるCSスローガンを選定しています。スローガンは毎年100件前後が応募され、これらを社員投票により、年ごとのCSスローガンとして選定。CSについて考えるきっかけとなっています。

また、選ばれたスローガンはポスター化し、社内の各所や会議室などに掲示して、CSを絶えず意識できるようにしています。



2024年版のポスター

### CS通信

社員のCSマインドをリマインドする機会として、毎月1回、全社員向けにCSに関するメールニュース(CS通信)を発行しています。内容はCS委員が持ち回りで体験やエピソードを記したCSコラムがメインとなっています。全社員が毎月リアルな体験をベースとしたコラムを読むことにより、CSについて考え、振り返るきっかけとしています。



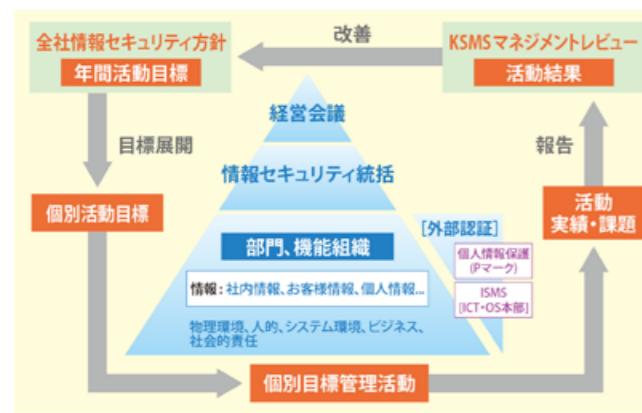
# セキュリティなくしてビジネスなし

## コベルコシステム情報セキュリティマネジメントシステム

KSMS: KOBELCO SYSTEMS information Security Management System

インターネットは、社会の経済活動に欠かせないインフラへ成長するとともに、個人情報の漏えい、詐欺、窃盗やテロなどが大きな社会問題となっています。

情報システムを本業とする当社は、関連会社も含め、KSMSというセキュリティマネジメント体系を定めてセキュリティ活動を行っています。KSMSでは、経営幹部によるマネジメントレビューのもと、



KSMS

## プロジェクトセキュリティプロセス

PSP: Project Security Process

コベルコシステムでは、プロジェクトのQCD管理に加え、2009年からPSPによるセキュリティ管理を推進、強化してきました。

PSPとは、プロジェクトごとにセキュリティリスク(個人情報の取り扱い、機密情報の取り扱い、本番環境アクセス)を把握したうえで、お客様とリスクを共有し、対応策を実施していくセキュリティ管理办法です。

お客様からお預かりしている情報資産を守ること、そしてその情報資産へのアクセスを管理することがコベルコシステムの使命と考え、プロジェクトのセキュリティを確保しています。

また、各種法令の準拠、海外の個人データの保護など、コンプライアンスに取り組んでいます。

## 情報セキュリティマネジメントシステム

ISMS: Information Security Management System

コベルコシステムのISMS認証は、2003年のハウジングサービス事業から始まり、適用範囲を徐々に拡大して、現在ではICT本部全体で認証を取得しています。

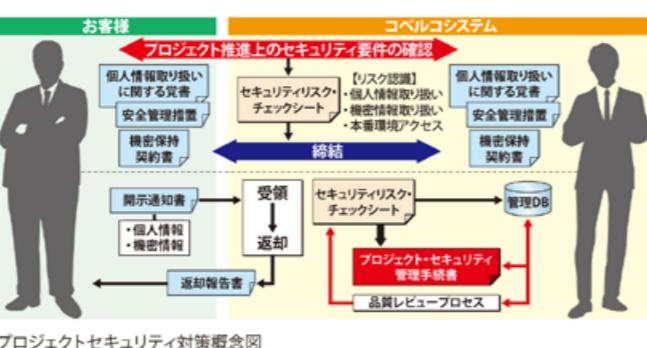
また、クライアント事業部アウトソーシング本部(一部除く)でも日本IBMグループの統一認証を取得しています。

お客様からお預かりする大切な情報資産を守るため、技術的なセキュリティ対策と組織全体のマネジメントの両面から、高度なセキュリティ管理のもとでサービスを提供します。

情報セキュリティポリシーの設定・見直し、および「物理環境」「システム環境」「人的」「ビジネス」「社会的責任」の各視点でセキュリティ活動のPDCAを回し、リスクの変化に適応したセキュリティ水準を維持しています。また、セキュリティ・インシデントへの対応は、全社で体制を整備・運用し、全社のセキュリティ活動にフィードバックしています。



セキュリティ・インシデント対応体制



## 個人情報保護の推進

お客様、社員の個人情報を適切に保護することは、コベルコシステムの重要な責務です。

当社は、プライバシーマーク制度の付与事業者となった2000年以降更新を重ね、個人情報を適切に保護する措置を構築しています。

また、毎年、全社員を対象に情報セキュリティ研修を実施し、個人情報保護の理解を深めるとともに意識の向上に努めています。

# 品質向上活動に終わりはない

## 全社品質方針

お客様の持続的な成長と貢献のために、  
品質マネジメントシステムを継続的に改善し、  
高品質なサービスを提供する

## コベルコシステム品質マネジメントシステム

KQMS: KOBELCO SYSTEMS Quality Management System

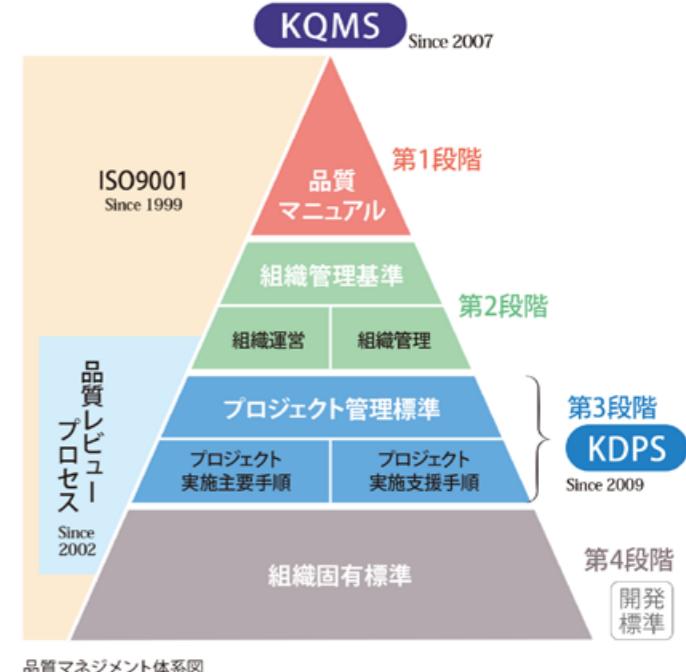
KQMSは、2007年に当社独自の品質マネジメントシステムとして制定されました。全社品質方針のもと、品質目標管理とプロジェクト品質管理によってお客様の要求事項を満たし、お客様満足度の向上を促進することと品質保証を目的としています。

ISO9001:2015に準拠した「品質マニュアル」を整備し、「組織管理標準」「プロジェクト管理標準」「組織固有開発標準」に基づいてシステム開発を行い、サービス品質を確保しています。

## ISO9001:2015 認証

当社は、1999年にISO9001:1994の認証を取得後、適用範囲を拡大し、現在は次の組織がISO9001:2015の認証を取得しています。

- ソリューション事業部
- クライアント事業部エンタープライズ本部
- クライアント事業部アウトソーシング本部第4サービス部
- クライアント事業部アウトソーシング本部第5サービス部
- ICT本部
- 営業本部



品質マネジメント体系図

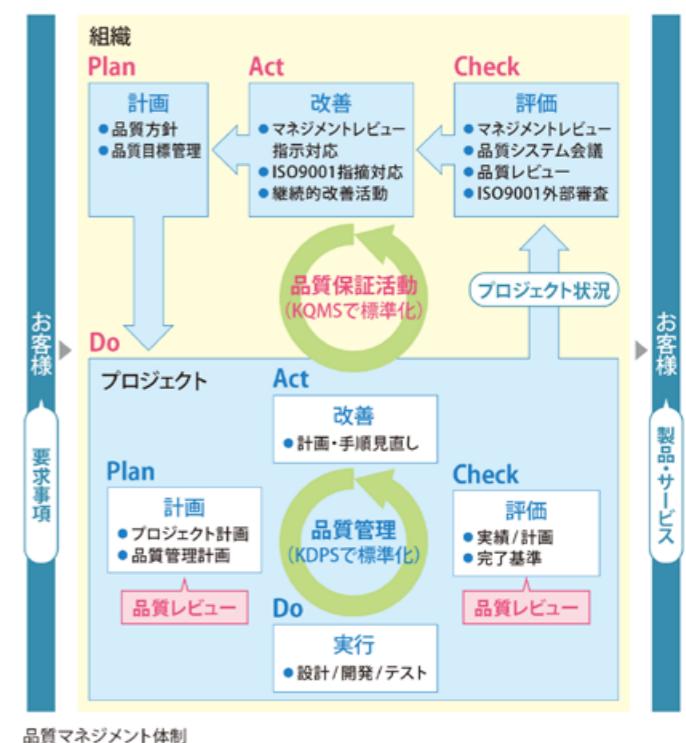
## 品質マネジメント体制

当社は、CDO (Chief Delivery Officer) をKQMSの最高責任者に位置づけ、品質保証活動を推進しています。品質保証全般については、経営者参加のもと月次マネジメントレビューにおいてプロジェクトの品質状況をフォローし、年2回のマネジメントレビューでは組織的な継続的改善活動のフォローとKQMSの有効性の検証を行っています。

## 品質レビュープロセス

個々のシステム開発・構築が、お客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内で確実に実現できるようにするために、当社独自の品質レビュープロセスを実施しています。

このレビュープロセスは、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象とし、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策の策定を行うため、訓練されたレビューにより実施されています。



品質マネジメント体制

# 先進技術への取り組み強化

## 新中期経営計画における取り組み強化

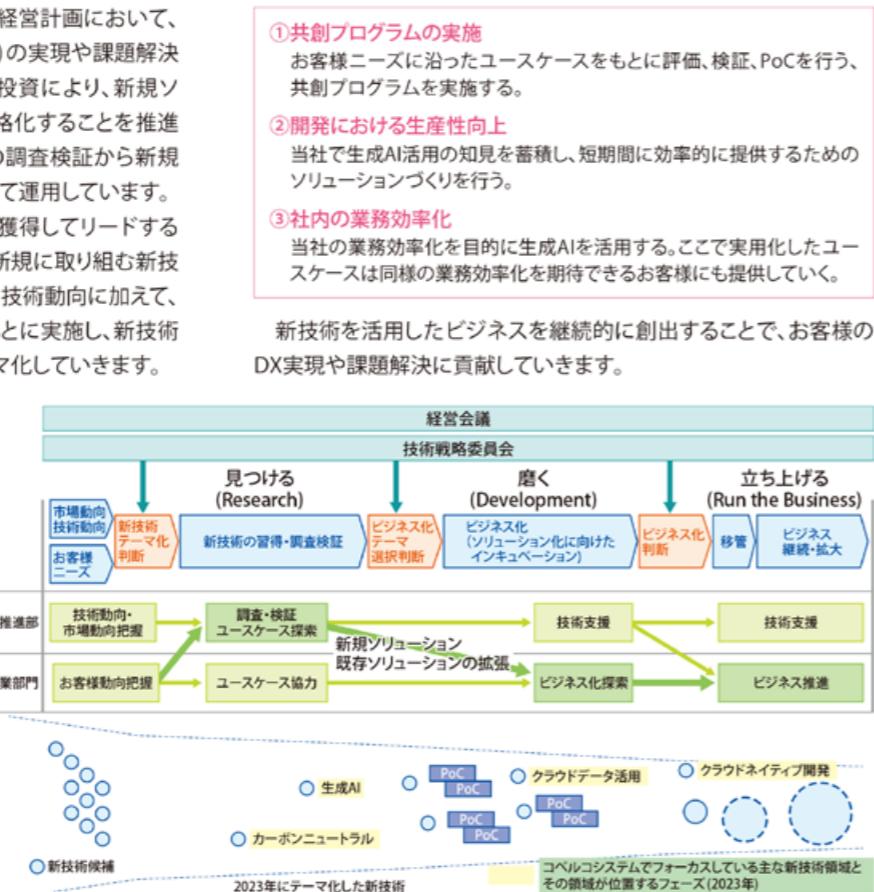
コベルコシステムでは、2024年からの新中期経営計画において、お客様のDX（デジタルトランスフォーメーション）の実現や課題解決に貢献するために、新しい領域への積極的な投資により、新規ソリューションの創出を加速し、DXビジネスを本格化することを推進していきます。そのため、下図のような新技术の調査検証から新規ソリューションを創出するまでのプロセスを定めて運用しています。

このプロセスでは、当社内で新技術を早期に獲得してリードする役割を持つ技術推進部が中心となって、当社で新規に取り組む新技術テーマを選定します。その選定では市場動向、技術動向に加えて、製造業をはじめとする当社のお客様ニーズをもとに実施し、新技術を活用したソリューション、サービスの形でテーマ化していきます。

選定されたテーマは、主体となって取り組む現業部門と技術推進部が「見つける（調査検証）」→「磨く（インキュベーション、PoC<sup>(9)</sup>）」→「立ち上げる（ビジネス推進）」の順に推進していきます。2023年は「生成AI」と「カーボンニュートラル」の領域でテーマが選定され、「見つける（調査検証）」フェーズの取り組みを推進してきました。

昨今の市場を賑わしている生成AIについては、2023年の「見つける」フェーズから、お客様ビジネスにつながる「磨く」「立ち上げる」フェーズに移行していくよう、次の3つの軸でソリューションの創出を図っていきます。

<sup>(9)</sup>PoC (Proof of Concept): 概念実証



## 社内技術カンファレンスの開催

「卓越した技術のコベルコシステム」を目指し、社員の技術力向上とノウハウ共有を目的とする社内技術カンファレンスを年1回開催しています。本カンファレンスは、社外からの招待講師による基調講演と、注目される技術に取り組んでいる社員による成果発表や事例紹介を中心としたセッションで構成しています。毎年、システムエンジニアを中心に多数の社員が出席し、日頃の業務とは異なる分野の先進技術や適用事例に触れ、刺激を得る機会にもなっています。

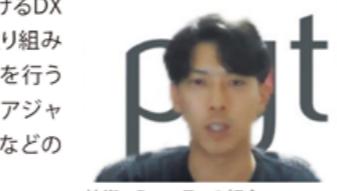
2023年は、オンライン会場で対面での開催に加えてリモート参加を併用したハイブリッドの開催形式で実施しました。また、社員が蓄積した技術やノウハウをお客様にも共有したいという思いを込めて、各本部のDXソリューションや先進技術の取り組み、技術コミュニティの活動成果についてセッションとして公開しました。

Keynote Dayの基調講演では、急激な変化を遂げている生成AI

<2023年のプログラム>

- Keynote Dayセッション：基調講演「IT変革のためのAIとプラットフォーム」、生成AIの取り組み紹介
- Agile Dayセッション：基調講演「アジャイルと共創による全社変革事例」、社内アジャイル取り組みの紹介
- 動画セッション配信：社内DX事例・テクニカル・技術コミュニティの3テーマに関するセッション（下記表参照）

セッション分類	概要
社内DX事例	各本部で取り組んでいるDXソリューションと適用事例の紹介
技術・事例	先進技術への取り組み状況や社内アセットの紹介
技術コミュニティ	技術・スキル強化に向けた研鑽活動を行っているコミュニティ活動の紹介



技術コミュニティの紹介



オンライン会場の様子

# 外部からの評価

## 感謝状・アワード

コベルコシステムにとって一番の喜びは、お客様からの「ありがとうございます」です。当社が実施した先進的なプロジェクトやアセットビジネスの取り組みなどを評価いただき、2023年もお客様やビジネスパートナー様から感謝の声をいただきました。

## ニッセイ情報テクノロジー様

ニッセイ情報テクノロジー株式会社（NISSEY IT）様から、2022年度顕著に貢献を果たしたパートナーに当社が選出され、謝意を直接お伝えいただくとともに、「NITハイパフォーマンスパートナー」の感謝状をいただきました。



## mcframe Award 2023「Promotion Award」

コベルコシステムは、2023年のmcframeパートナー総会にて、mcframe Award 2023「Promotion Award」を受賞しました。ダウンロード資料やmcframe導入事例など、Webサイト「mcframe.com」内での情報発信や、自社ブランドであるHI-KORTとmcframeを組み合わせた新たなソリューションのPRなど、デジタルコンテンツを活用したさまざまなプロモーション活動への積極的な取り組みが評価されました。



## 第34回「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰

2023年6月3日（土）、福岡県北九州市の勝山公園にて、第34回全国「みどりの愛護」のつどいが開催されました。

花と緑の愛護に顕著な功績のあった民間の団体に対し、その功績をたたえ、国民的運動としての緑化推進活動の模範として表彰する第34回「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰の受賞者に、六甲砂防事務所の「森の世話人」として活動しているコベルコシステムが選ばれました。

全国「みどりの愛護」のつどいは、「みどりの日」制定の趣旨を踏まえ、全国の緑の関係者が一堂につどい、広く都市緑化意識の高揚を図り、緑豊かな潤いのある住みよい環境づくりを推進するとともに、緑を守り育てる国民運動を積極的に推進していくことを目的に1990年から開催されています。



## 2023年度IBMナレッジモール研究 優秀賞 受賞

メタバース空間を利用した2023年度IBMナレッジモール研究に、コベルコシステムグループから10人（コベルコシステム4人、コベルコソフトサービス6人）が参加、うち1件が優秀賞を受賞しました。

IBMナレッジモール研究は、企業・業界・世代の枠を超えたワー

優秀賞 [情報システム] レガシーシステムのモダナイゼーションをどう進める?

これからも、お客様やビジネスパートナー様から笑顔で感謝のお言葉をいただけるよう、また、お客様にとって一番のTrusted Partnerとなるよう、尽力していきます。

## ノーリツ様

株式会社ノーリツ様社内における方針発表会・成果発表会における表彰式で、株式会社ノーリツ 廣岡常務（取締役兼常務執行役員、経営戦略統括本部 統括本部長）から感謝状をいただきました。



コベルコシステムが果たした役割は、夜間・休日システム障害時のコール体制の見直しによりお客様ご担当者へのコールを極力削減したこと、また、アウトソーサーメンバー内で対応を完結できる運用の実現です。

評価されたポイントは、ノーリツ様システム窓口ご担当者の業務負荷を軽減したこと、また、属人化していた夜間対応について対応内容の分析、手順化、教育を経て対応可能メンバーの拡充を図り、チーム運用体制を確立したことです。

## SAP AWARD OF EXCELLENCE 2023 Marketing Success アワード

コベルコシステムは、SAPパートナー向けのコンベンション「SAP Japan Partner Summit 2023」における SAP AWARD OF EXCELLENCE 2023 にて「SAP Marketing Success アワード」を受賞しました。

案件創出数、売上高においてビジネスに大きく貢献したことが高く評価されました。

『SAP AWARD OF EXCELLENCE』は、1998年に創設されたお客様満足度およびSAPビジネスへの貢献度がきわめて高く評価されたパートナー企業および個人に授与されるSAP AWARDの中でも最も価値があるとされる賞です。

当社にはこれまで、2003年の「サービスパートナー部門」賞をはじめ、プロジェクトのインパクト、お客様の評価、プロジェクトのクリエイティビティなどが総合評価される「プロジェクト・アワード」優秀賞（2006年、2007年、2010年、2011年、2012年、2013年、2014年、2019年、2020年受賞）、特別賞（2018年）、SAP Services Collaborationアワード（2022年）などの受賞実績があります。

# お客様事例紹介

## たねやグループ様

たねやグループ様(たねやグループCEO 山本 昌仁 様)は、滋賀県近江八幡で和菓子舗『たねや』として創業され、2022年に150周年を迎えた老舗菓子メーカーです。同グループではバームクーヘンを主力商品に持つ洋菓子舗『クラブハリエ』や各店舗へ出荷する山野草の栽培などを行なう『キャンディーファーム』なども展開されています。また、近江商人の精神を受け継ぎ、自然や社会のサステナビリティを経営の主軸に据え、近年では女性活躍推進など、SDGsへの貢献にも積極的に取り組まれています。

かつて同社では、工場や店舗で稼働している無線ネットワークを、拠点独自に導入・設定・運用を行っていました。そのため、ネットワークシステムの切り替えや設定変更、機器の故障やトラブル発生の際に、当該拠点のシステムに詳しい社員、または委託の外注ベンダーを派遣する必要がありました。コストやリソースを計画的に活用できず、故障やトラブルに対しても事後対応となっていた体制・状況を解決したいと考えた同社は、無線ネットワークの統合管理を決断。これまでの取引における有線/無線ネットワーク構築・運用の知見・ノウハウ、提案内容や姿勢を評価いただき、コペルコシステムが導入パートナーに選ばれました。

コペルコシステムでは、同社が求める要件に対して、無線ネットワークの遠隔管理が可能な、いわゆる「ゼロタッチプロビジョニング」による無線LAN環境を整備・設定変更可能な無線ソリューションの導入を提案しました。さらにネットワークインフラ環境の構築後の運用サービスによって、同社の課題をワンストップで解決することを加えて提案しました。

新たな無線ネットワークインフラが整備できたことで、主要な拠点や遠方にある無線LAN環境を本社から一元管理可能となり、本社システム担当者の過剰な対応工数が削減できました。以前は、設定済みの機器をシステム担当者が拠点や各百貨店へ持ちこむことや、社内便で配送するなど、過剰な出張対応や店舗の販売員への設定・接続説明に工数を割かれていました。しかし、今では無線端末を現地で物理結線さえ行なえば、本社から遠隔で設定を投入、変更することができるようになっています。今後はさらに、無線ネットワークの可視化やAIを用いた運用管理効率化も検討していく予定です。



ふくみ天平(ふくみてんびん)



バームクーヘン

## たねや CLUB HARI



たねやグループ様 本社

コペルコシステムでは、これからも同社の業務の自動化・可視化に向けて、継続的に業務改善の提案を行い、ビジネスの発展に貢献していきます。

### お客様の声 常務取締役 山本 寛之 様

拠点数の増加に伴い、無線ネットワークインフラの管理、運用課題が多くあり、ネットワーク機器類のリプレイスタイミングに合わせ、コペルコシステム様に相談させていただき、「無線ネットワークの統合管理」をご提案いただきました。

無線ネットワークの統合管理に変更後、ラコリーナ近江八幡内の50台を超える無線APのリプレイスを実施しましたが、半日ほどで移行することが可能となりました。

来期には、大型拠点での無線APのリプレイスを計画しており、工数が削減されるので、作業費が前回実施時より大幅に削減されると期待しています。

今後は弊社システム担当者で無線ネットワークインフラの簡易的な監視、障害原因の初動確認などの実施を考えおり、ネットワークインフラの可視化、AI運用管理のご提案をいただきながら検討を進めたいと考えています。



当社社員と一緒に(左側 常務取締役 山本 寛之 様)

## コナミスポーツ株式会社様

コナミスポーツ株式会社様(代表取締役社長 室田 健志 様)は、1973年の創業以来、スポーツクラブ(フィットネス、運動スクール)の運営、公共スポーツ施設の管理運営、およびスポーツ・健康関連のコンテンツや商品の企画・開発・販売など、コナミグループのスポーツ事業を展開されています。同社はスポーツ全般にかかる幅広いサービスを提供されていて、スポーツクラブ運営で培ったノウハウを活かし、地域社会の課題解決に取り組まれています。また、オンラインフィットネスや女性専用のピラティス施設などのサービス拡大も推進されています。

健康サービス業界の最大手である同社では、これまで行われてきた吸収や合併によって、基幹システムが時代に即さない状態になっていました。そのため、業務スピードの向上や将来の業務変化に柔軟に対応可能な基盤への刷新が必要と判断し、フロント業務、会員管理、売上・請求システムの全面刷新を決断。検討を重ねられた末、提案の内容と姿勢を評価いただきコペルコシステムが導入パートナーに選ばれました。

コペルコシステムは、同社が求めるビジネスニーズに柔軟に対応可能な会員管理システムの構築を提案。パッケージを根本に据え、コナミスポーツ様に合ったカスタマイズを施すとともに、サブシステム間を疎結合にすることで、適切な投資を適切な箇所に行える形を実現しました。また、当時の業界標準技術に対応したデータベースを採用し、将来の拡張を見据えて汎用性を確保。会員へのサービス向上を見越し、施設のキャッシュレス化やデジタル会員証によるセルフチェックインの実現など、フロント業務スピードのさらなる向上や会員向けWebサービス開始のためのシステム基盤を構築しました。

2012年にサービスインした本システムは、リリース当初はトラブルに見舞われる事態もありましたが、コペルコシステムと粘り強く対応することで、安定稼働にいたりました。導入後、本システムは通常会員、運動塾会員、法人会員の基本情報の管理に加え、Web入会との連携や商品管理とも連携した一元管理も実現しています。



コナミスポーツクラブ内施設

## KONAMI SPORTS CLUB



コナミスポーツ様 本社

同社では、コペルコシステムのアプリケーション保守を利用してビジネスニーズに応じた追加・改善を継続的に取り組まれています。引き続き、時流に沿った会員制度の導入や各種施策の実施にあたり継続的に支援させていただく予定です。

コペルコシステムでは、これからも同社の成長に向けて継続的に追加・改善作業を行い、ビジネスの発展に貢献していきます。

### お客様の声 情報システム部 部長 田中 宏昭 様

長期にわたり会員管理システムをはじめ、システムの運用・保守の支援をいただきありがとうございます。これまでの運用・保守の経験を通じたノウハウを活用し、引き続き支援をお願いするとともに、ASTERIA Warpによるデータ連携環境の整備推進など、積極的なシステム環境の改善にも期待しています。



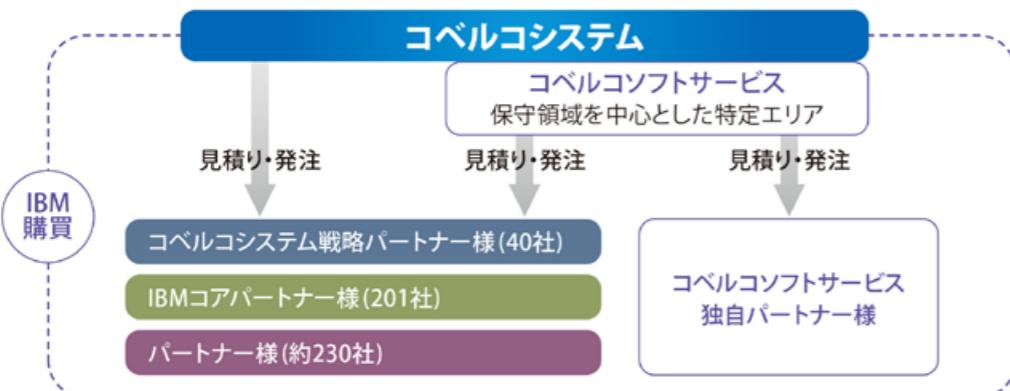
当社社員と一緒に  
(右から二人目 情報システム部 部長 田中 宏昭 様、  
右から一人目 情報システム部 マネージャー 寺尾 雄 様)

# 公正なパートナーシップの維持

## より強固なパートナーシップの構築

コベルコシステムでは、2016年1月から「コベルコシステム戦略パートナープログラム」を導入しています。このプログラムは、価格競争力を保ちつつ、品質の高いサービスをご提供いただけるパートナー様と戦略的パートナーシップを結ぶことで、お客様へさらに価値あるサービスを提供することが目的です。

戦略パートナー様には各社の強みや技術者情報などをご提供いただき、当社からは今後のビジネスを優先的にご紹介するなど情報連携を強化しています。それによって、より高いセキュリティ遵守、適正取引などの法令遵守の相互協力、また、見積りプロセスの簡素化や品質評価のフィードバックの実施など、相互にメリットをもたらす、より強固なパートナーシップを構築しています。



### 当プログラム対象パートナー様のメリット

- 当社とのリレーション強化の場を提供(パートナー会など)
- CSA(見積りシステム)でのバイヤレス(IBM購買バイヤーを介さない)プロセスの実現により見積りプロセスの簡素化と発注までのリードタイム短縮
- 当社の購買部門との定期的な意見交換および双方のビジネス拡大に向けた取り組みを協業して実施
- 当社主催のセミナー/研修/勉強会への参画
- 品質評価(QCD)フィードバックの実施

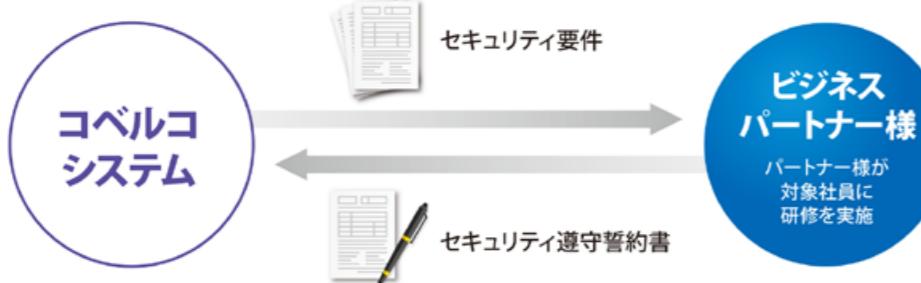
## 一体となってセキュリティを確保

コベルコシステムは、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、当社の社員と同等の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるよう協力いただいている。

当社は、社員に対し、セキュリティ事項の遵守、徹底を図るために、毎年内容を見直して研修を実施しています。また、ビジネス

パートナー様に対しては、各社の責任者に依頼し、対象社員に向けて研修を実施していただいている。2023年度のセキュリティ研修においても、対象者全員が十分な理解状況にあることを各社からの履修理解度報告で確認しています。

これにより、当社とビジネスパートナー様が一体となって、お客様のセキュリティ確保につなげています。



## 適正取引の推進

コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様へのそれぞれの業務委託方式にあわせた発注・進行管理を行っています。それらを適正に行うために、CSR推進委員会内に「適正取引部会」を設け、適正取引ガイド、eラーニングなどにより、具体的なガイドを社内に徹底する一方で、ビジネスパートナー様に対しても、必要に応じて情報発信やアンケート調査、個別訪問の実施などを通じてその理解と実践をお願いしています。

主な取り組みは、以下の3点です。

- ① ビジネスパートナー様における適正取引状況の調査
- ② ビジネスパートナー様の再委託先活用状況確認
- ③ 請負の適正化のための自主点検実施および実態調査

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。

## パートナー会(メタバース環境)

当社では、毎年ビジネスパートナー様をお招きして、コベルコシステムパートナー会を開催していましたが、2020年からのコロナ禍によって開催を見送っていました。

しかし、コミュニケーションを図る場としてパートナー会が有効であることから、メタバース環境にて開催いたしました。

メタバース環境では総勢150の方に参加していただき、後日のアンケートでは95%以上の方から満足と評価を得ました。

今後も新技術などの活用にもチャレンジしながら、ビジネスパートナー様との交流を深め、継続した関係性の維持・向上を実施していきます。



会場俯瞰 基調講演時



基調講演 登壇者側視点



役員懇談



# 人材育成の仕組み

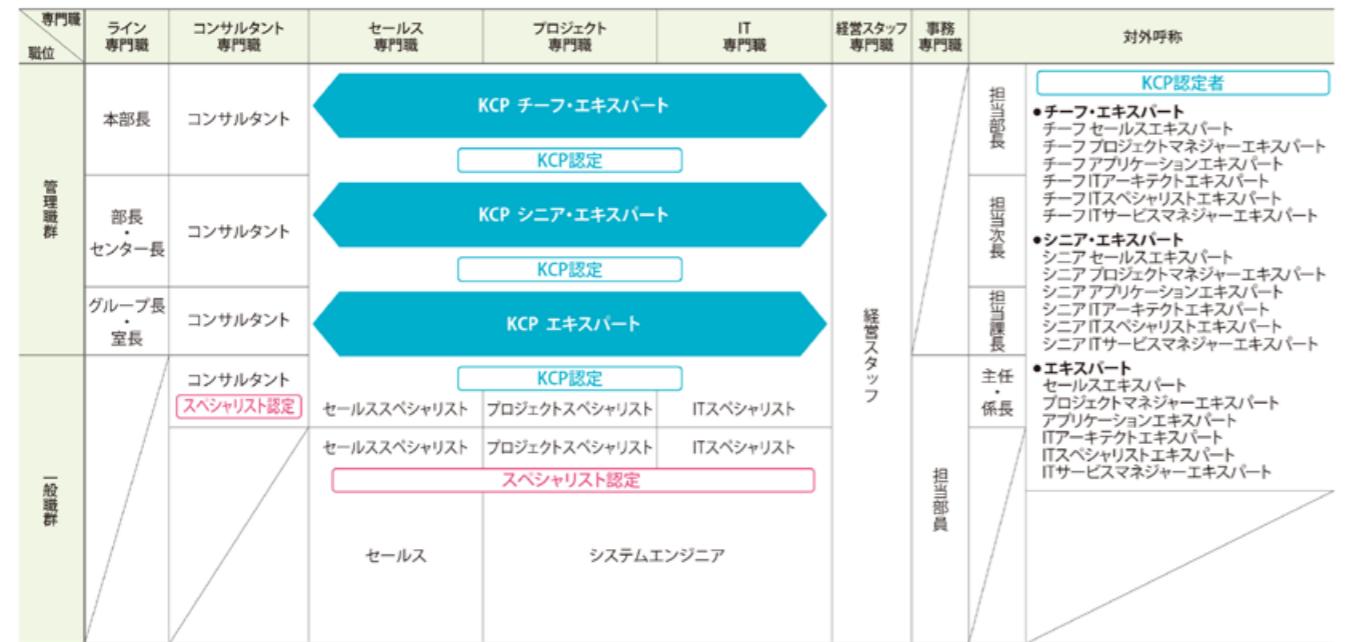
『「コベルコシステムの最大の資産は人であり、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮こそが会社発展の原動力である」という認識のもと、一人ひとりが互いを尊重し合いながらイキイキと働き、定義しています。

- ① ITのプロフェッショナルとして、常に自らの専門性を磨き、高めるとともに、時代や環境の変化に、柔軟に自分で考えて動くことができる人材
- ② 人と協働し、他も活かし、組織・チームの目標達成のために、組織・チームの能力の最大化と最大限発揮に貢献できる人材
- ③ 社会人・企業人として、社会や会社のルールを遵守し、お客様に対しても常に責任を持って誠実に対応できる人材

## 複線型プロフェッショナル職制度を基軸に～コベルコシステム認定プロフェッショナルを目指して～

これらを具現化する仕組みとして、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮を追求する複線型プロフェッショナル職制度を採用しています。

そしてハイレベル人材の育成・登用および各職種の目指すべき人材像として、KCP認定制度 (KOBELCO SYSTEMS Certified Profession) を設けています。

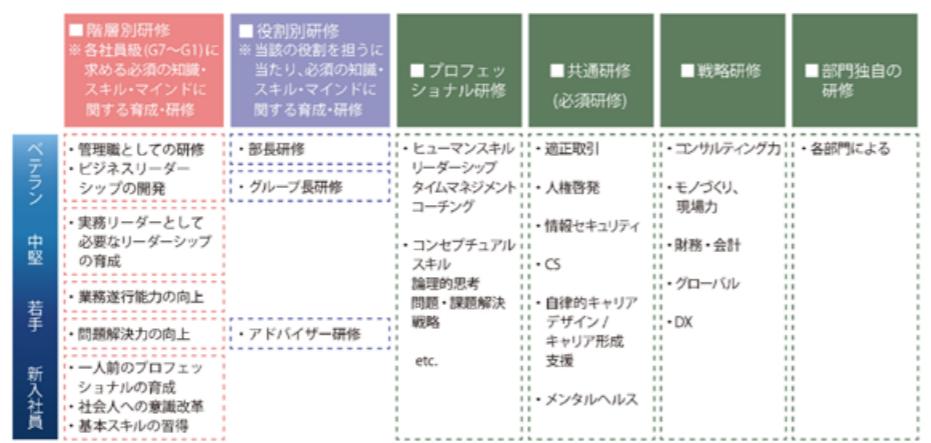


## 教育・研修体系

コベルコシステムでは、「すべての質を高めよう」という狙いのもと、IT研修はもとより、ヒューマンスキルなどの普遍的要素の研修や、お客様の経営課題解決に寄与するコンサルティング力、モノづくりや現場力の強化など経営戦略に即応した、さまざまな研修を実施しています。

また、社員全員が知識を習得するための必須研修、各階層や役割別の研修、個人の成長段階にあわせて受講できる研修や、それぞれのキャリアプランに沿って選択・受講することが可能な通信教育、スマートフォンなどでも学習できるeラーニングなど、個人のスケジュールを踏まえて効率よく利用できる環境も

提供しています。2024年も、お客様のパートナー (Trusted Partner) となる人材の育成をさらに強化します。

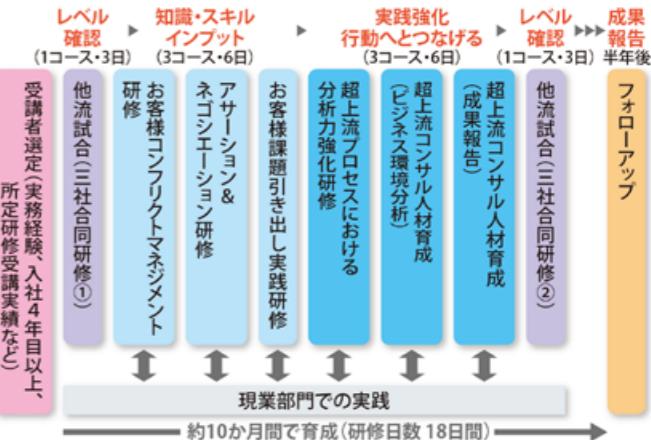


## コンサルティング力強化プログラム

ITを取り巻く環境変化に伴い、現在コベルコシステムに求められているのは、お客様のビジネス環境やニーズを理解し、ともに経営課題を解決できる人材です。そのような状況を背景に、「ITベンダーからITパートナーへの変革」を目指し、2016年から開始したのが「コンサルティング力強化プログラム」です。

当プログラムでは、企業分析方法などの知識習得をはじめ、提案書作成、プレゼンテーションなどの講義や実践演習を通じ、さまざまなアプローチでお客様へ提案する際の姿勢やスキルを体得します。

プログラム期間は約1年間で、受講者は各部門から選抜された若手へ中堅層メンバーです。今後もお客様のパートナーとして活躍できる人材の育成を加速していきます。



## コンサルティング研修 受講者の声 アウトソーシング本部 第2サービス部 鎌倉システム室 福永 健さん

研修に参加したきっかけは、「コンサル力強化」という内容で、今までの業務で経験していないことを学び、自身の成長につながると考えたからでした。

本研修の流れは、企業課題の分析手法を講義で学び、実戦形式のロールプレイを通じて学んだことを身に着けるということを繰り返していました。

最終的には経営陣に対して、実在する企業の、経営課題・戦略を分析し、ビジネス提案を実施しました。

普段の業務とは違った観点で頭をフル回転させることとなり、非常に刺激的な研修だったと思います。本研修で学んだことを活かし、お客様の今後のビジネスに貢献したいと考えています。



## グローバル人材育成プログラム

コベルコシステムが求めるグローバル人材とは、「社会人基礎力」や「ITスキル」「プロジェクトマネジメントスキル」「セールススキル」をベースに、「異文化を理解する力」「世界で幅広く通用するコミュニケーション力」というグローバル特有要件を兼ね備えた人材です。

当プログラムは、英語でのE-Mailライティングスキルや海外でのビジネスミーティングの進め方など、異文化コミュニケーションの要諦を解説と実践演習による経験を通じて理解・習得する内容になっています。

また、研修の成績優秀者には海外で実践するグローバルリーダー研修を準備しています。語学やスキル習得に加えて、アジア各国の参加者とのコミュニケーションも体感してもらいます。今後もグローバルビジネスで活躍できる人材輩出の環境づくりを積極的に行っていきます。

異文化理解  
グローバル・コミュニケーション力  
ITスキル、プロジェクトマネジメントスキル、セールススキル  
社会人基礎力

コベルコシステムが求めるグローバル人材要件

## グローバル人材育成プログラム 国内研修参加者の声 製造ソリューション本部 PLMデリバリーセンター 清原 裕介さん

私はもともと英語のコンテンツ(映画・ゲーム)が好きで英語に興味がありました。また業務にて外国の会社様と英文を使用したやり取りの中で英語力を向上させたい気持ちがありました。そのような中でグローバル研修は大変貴重な機会で、本研修ではビジネスシーンに沿ったより実践的な内容で初めて知ることが多く、興味を持って受講に臨むことができました。

同じ意味でも表現によってニュアンスが異なるなど、普段の英語学習では知りえない知識を身に着けることができたと実感しています。英文作成時は、翻訳機を使ってもどうしても正な表現になることがあるかと思います。本研修で培ったノウハウと学習で、自然なビジネス文書を作り上げ業務に役立てていきたいと思います。



## グローバル人材育成プログラム 海外研修参加者の声 技術推進部 ソフトウェアエンジニアリンググループ 岡 由紀子さん

グローバルリーダー研修ではマレーシアで現地のエンジニアを交え、DXで組織変革を行うために必要なフレームワークや考え方を学ぶことができました。講義、ワークショップ、チームでのコミュニケーションすべてが英語で行われるため、思うことがうまく伝えられないこともありますでしたが、参加者からマレーシアでのシステム開発の現場の声を直接お聞きすることができ、とても貴重な体験をさせていただきました。一緒にワークショップをしてくれた現地参加者の皆様、日本から参加した皆様ともによくしていただき大変感謝しています。

DXで組織変革するためには人間中心にものごとを考えることが必要、と講師もおっしゃっていました。言葉も文化も異なる人たちとお互いを尊重しながら一緒に価値を創造する、そのような働きができるよう英語はもちろんのこと、お客様・チームで価値を創造するため必要となる知識、人間力ともに日々精進したいと改めて思いました。当研修に参加させていただき、本当にありがとうございました。





### 自律的キャリアデザイン研修

コベルコシステムは、社員一人ひとりが成長を実感し、働き甲斐を感じて当社で働き続けるためには、個人のライフスタイルや価値観を尊重しつつ、社員が自律的にキャリアをデザインし、会社はそれをサポートしていくことが大切だと考えています。

これまでキャリアコミュニケーションプログラムを通じてキャリアについてメンバーとライン長が定期的に対話する機会を設けていましたが、新たにキャリアデザインの仕組み、組織風土醸成の一環として、自律的にキャリア形成するための知識を習得してもらうべく、全社員向けに「自律的キャリアデザイン研修」、メンバーを支援するライン長向けに「キャリア形成支援研修」を2022年から開催しています。

「自律的キャリアデザイン研修」では、自らの価値観やライフスタイルを踏まえ、自身のキャリアについて考え、さらに将来の夢や目標・自己成長の実現に向けたキャリア形成の考え方をeラーニングで学びます。

「キャリア形成支援研修」では、社員と近い距離でかかわるライン長向けに開催し、メンバーの想いや目指すキャリアについて親身になって聞くといったサポートができるように研修を通じてコーチングや面談の進め方などの理解を深めてもらう構成になっています。

### ビジネス推進人材育成プログラム

コベルコシステムならではのデジタル・トランスフォーメーションを目指して、2022年からスタートした「DXビジネス推進人材育成プログラム」も研修内容をプラスアップしながら、2年間で延べ300人以上の受講者を輩出してきました。

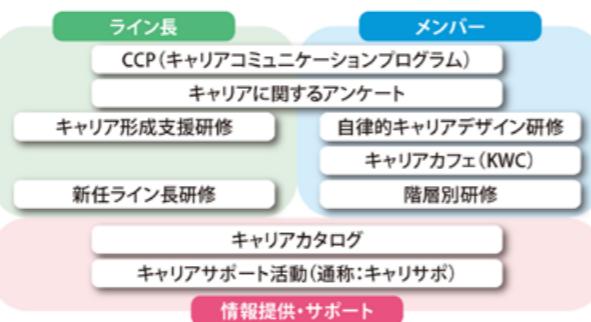
これまで部門指名制であった募集方法を受講者自身が希望して参加する方に変更したこと、受講者の自律性を高めつつ、研修メニューの評価と改善を行い有用性の高いプログラムへと成長しています。

DXに欠かせないテクノロジーの教育に加え、DX案件をリードするDX推進リーダーの育成にも積極的に取り組んでおります。

案件事例としては、製造業のお客様を中心としたAI画像解析による製品の欠陥検知や、自然言語処理による類似文書検索の支援、IoTデータから異なる付加価値を創出するためのデータ分析基盤の構築案件にて、お客様とともに新しい価値を生み出すための業務変革を推進してきました。

研修後に実施したアンケートでは両研修ともに、有用性・理解度の評価も高く、「自律的キャリアデザイン研修」では、「自分のキャリアを見つめ直す良い機会になった」「今後のキャリアを考える際に参考になった」といった声が寄せられています。また、「キャリア形成支援研修」では、「部下とのコミュニケーションのあり方を再認識するため大変参考になった」「メンバーのキャリア形成に多々悩みがあり、気付きやヒントを得ることができる良い機会になった」などの声もあり一定の効果がありました。

今後もキャリア形成に関するアンケートで社員の思いを確認しながら、社員一人ひとりが成長と働き甲斐を実感できるよう積極的にキャリア形成を支援していきます。



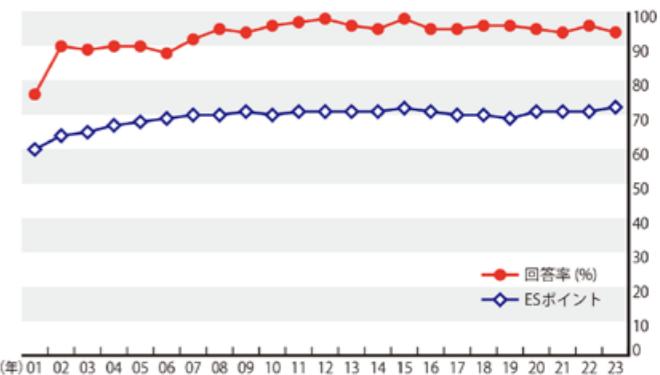
### 社員満足度調査

## 社員と組織の絆を深めるために

### 社員満足度調査

「社員満足(ES)の向上がお客様満足(CS)の向上につながる」という基本認識のもと、2001年から毎年、社員満足度調査を実施しています。全社員を対象に匿名で回答してもらうことで、社員の率直な意見を集め、課題の分析や改善策の立案を行っています。

総合満足度との相関が高くポイントの低い設問への対応に加え、「一律から個別へ」の方針を掲げ、「業務環境の違い」にも着目して対策をとっています。業務環境による社員満足度のバラつきを正など、社員一人ひとりを取り巻く環境を踏まえ、「満足の質」を高める課題の発見や改善に向けたアクションをとっています。

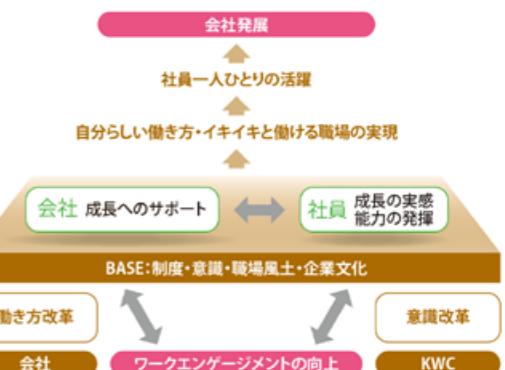


### KWC活動(KOBELCO SYSTEMS Work-engagement Community)

「KOBELCO SYSTEMS Work-engagement Community(略称:KWC)」は、「社員が自らイキイキと働き続ける会社」をビジョンに、全社横断の自主活動を展開しています。

長年、ワークライフバランスをテーマに行ってきた活動でしたが、在宅勤務が増える中でのコミュニケーション活性化やES向上などを課題に、2022年に“ワークエンゲージメント”をテーマに活動をリニューアルしました。

今年の活動としては、「キャリアカフェ」という名の座談会で若手社員約60人にキャリアに関する想いや悩みなどを聴き、それらをもとに各部門から集まったKWCメンバーが会社施策を検討、会社への提言を行いました。今後もKWCを触媒として、社員一人ひとりがイキイキ働くことのできる環境づくり、社内のワークエンゲージメント向上をサポートしていきます。



### キャリアカフェで出た意見

参加者からは、「現状のキャリアには満足していることが多い」という前向きな意見が出た一方で、「未来のキャリアに漠然とした不安がある」「周りに参考とする身近な先輩がないのでイメージがつかない」というような声も挙がりました。これらの意見をもとに“ロールモデルとの交流機会の創出”、“キャリアプランの効果的な立案支援”などについて提言を行い、今後の取り組みへとつなげていきます。

### 全社イベント「コベルコシステムハッピーデー」～家族とともに～

コベルコシステムでは、2008年から「社員同士の一体感の醸成」「社員を支えてくれている家族への感謝」をテーマとして家族参加型の全社イベントを開催しています。2021年はビデオ会議によるオンラインイベントを行い、2022年から屋外でのイベントを継続して開催しています。

社員から好評だったこともあり、今回もご家族や仲間同士で日程を自由に決めて楽しめるよう、テーマパークのチケットを各ご家庭に配布する形にしています。

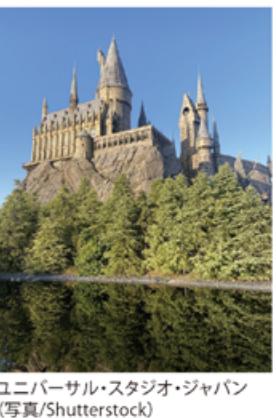
東京地区は東京ディズニーリゾート、神戸地区はユニバーサル・スタジオ・ジャパンです。

社長の瀬川から「一昨年に続き昨年も最高業績を更新、順調に成長を続けています。これもひとえにお客様に対して真摯に向き合った社員の皆さんのが努力の賜物と心から感謝を申し上げます。そしてそれを支えるご家族の皆さんにあらためて心から感謝を申し上げます。ぜひ、ご家族や仲間たちと一緒に楽しいひとときを過ごしていただければ幸いです。」とチケットとともにメッセージが贈られました。

社員同士の一体感の醸成を図れる貴重な機会です。思い思いに羽を伸ばし、期待度の高い有意義なイベントになりました。



東京ディズニーリゾート（写真/Shutterstock）



ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（写真/Shutterstock）

# 環境保護・地域貢献活動

## 「森の世話人」活動

コベルコシステムが本拠を置く神戸は、シンボルである六甲山の自然に恵まれ、地域社会全体で六甲山の自然を守り育て、親しみ、そして楽しんでいます。

コベルコシステムでは、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所が推進する防災事業の六甲山系グリーンベルト整備事業に「森の世話人」として参加し、六甲山の前山の金鳥山（神戸市東灘区）南側に広がる森林を「Kocoroちゃんの森」と名付けて整備しています。

主な活動は、他の植物の生育を妨げるネザサの刈り取り、腐朽木や外来樹種の伐採、常緑樹の間伐、落葉広葉樹の植樹などです。



第38回「森の世話人」活動（2023年11月3日実施）

※コベルコシステムの「森の世話人」活動の活動報告は、国土交通省の以下のページに掲載されています。

[https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/pr\\_media/plant/group/company/kobelco.php](https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/pr_media/plant/group/company/kobelco.php)



コベルコシステムの自然保護活動  
イメージキャラクター  
Kocoroちゃん



## コベルコシステムの「森の世話人」活動が第34回「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰を受賞

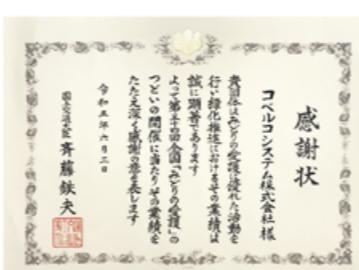
2023年6月3日(土)、福岡県北九州市の勝山公園にて、第34回全国「みどりの愛護」のつどいが開催されました。

花と緑の愛護に顕著な功績のあった民間の団体に対し、その功績をたたえ、国民的運動としての緑化推進活動の模範として表彰する第34回「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰の受賞者に、六甲砂防事務所の「森の世話人」として活動しているコベルコシステムが選ばれました。

第34回「みどりの愛護」のつどいには、秋篠宮皇嗣同妃両殿下も御臨席され、当社からは社長の瀬川が式典に出席し記念植樹を行いました。



記念植樹を行った社長の瀬川



## その他の社会貢献・地域貢献活動

### ■スポーツ振興・文化芸術への協賛

- NPO法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SCIX)に協賛しています。
- ジャパンラグビー リーグワンのコベルコ神戸スティーラーズのオフィシャルサポートナーです。
- 公益社団法人大阪フィルハーモニー交響楽団、公益社団法人アンサンブル神戸に協賛しています。
- 神戸まつり、神戸ルミナリエに協賛しています。

### ■サイバー犯罪に対応するための兵庫県警への貢献

兵庫県警察本部からの委嘱を受けて、サイバーテクニカルセンターとして社員を派遣し、サイバー犯罪に対応するためのIT検査知識・技術の向上に貢献しています。

## 会社プロフィール

会社名稱：コベルコシステム株式会社  
創立：1983年10月1日  
(神鋼コンピュータシステム株式会社として発足)  
設立：1987年7月1日（コベルコシステム株式会社に商号変更）  
代表者：代表取締役社長 瀬川文宏  
株主：日本アイ・ビー・エム株式会社 51%  
株式会社神戸製鋼所 49%  
資本金：4億円  
社員数：1,782人（2024年1月1日現在、関連会社533人を含む）  
関連会社：コベルコソフトサービス株式会社  
本社：〒657-0845  
神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号（シマブンビル）  
U R L：<https://www.kobelcosys.co.jp/>  
売上高：516億円（2023年度）  
売上高推移：600

事業所：



## 沿革

2023年：第34回「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰 受賞  
2022年：クラウド事業部、ソリューション事業部 開設  
事業統括本部、キャリア開発センター 開設  
新たなチーフオフィサー制導入  
2021年：エンタープライズ開発本部をエンタープライズ本部に改組  
2020年：エンタープライズ開発本部 開設  
次世代育成支援対策推進法認定マーク（プラチナくるみん）取得  
広島事業所開設  
2019年：技術開発本部 開設  
スマートファクトリーセンター 開設  
2018年：デジタルイノベーションセンター 開設  
クラウドパートナーチーム 設置  
2017年：日本IBMグループ統一ISMS認証取得（SO本部）  
2016年：東京本社リニューアル  
2015年：「コベルコシステム クラウドインテグレーションサービス」開始  
事業部制導入  
2014年：SAP導入テンプレート「HI-KORT」のクラウドサービス開始  
本社「近畿ニューオフィス コミュニティ賞」受賞  
ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）永年登録表彰

2013年：「プライバシーマーク制度貢献事業者」として表彰  
2011年：中国・北京で開催された「SAPPHIRE NOW in Beijing」に参展  
2010年：クラウドサービスセンター開設  
2009年：次世代育成支援対策推進法認定マーク（くるみん）取得  
2007年：全国企業品質賞にて大賞受賞（栃木県経営品質協議会主催）  
2006年：東京事業所を東京本社と改称  
全国企業品質賞にて最優秀賞受賞（栃木県経営品質協議会主催）  
2005年：AMS<sup>⑩</sup>センター開設  
2004年：IPセントレックス・IPコミュニケーション事業に進出  
2003年：ISMS認証取得  
2002年：アウトソーシング事業を強化  
日本IBMの資本参加  
2000年：プライバシーマーク（個人情報保護）の認定取得  
1999年：ASP事業の本格的な展開を開始  
ISO9001認証取得

※10 AMS: Application Management Service  
SAPのERPパッケージをベースとした基幹システムの、本番稼動後の安定稼動や運用技術支援、業務の定着化を支援するサービス

## 編集後記

本レポートを最後までお読みいただき、まことにありがとうございました。2010年から毎年発行してきた本レポートも、15回目となります。今年は「サステナビリティ経営」を掲げる新中期経営計画の初年度に当たることから、「CSRレポート」から「サステナビリティレポート」に改称し、コベルコシステムが取り組むサステナビリティ経営について詳しくお伝えしました。本レポートを通じて、皆様にコベルコシステムの考え方・取り組みを深く知っていただくことで、皆様から信頼されるパートナー（Trusted Partner）に少しでも近づけましたら幸いです。

サステナビリティレポート2024は、以下のURLからWebBook版でもご覧いただることができます。

<https://www.kobelcosys.co.jp/ebook/sus/2024/sus2024/>

ご意見・ご感想は、当社ホームページ「その他のお問合せ」からお願いいたします。

<https://www.kobelcosys.co.jp/inquiry/other/>

コベルコシステム株式会社 総務部  
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル10F  
TEL: 078-261-7531 FAX: 078-261-7520

